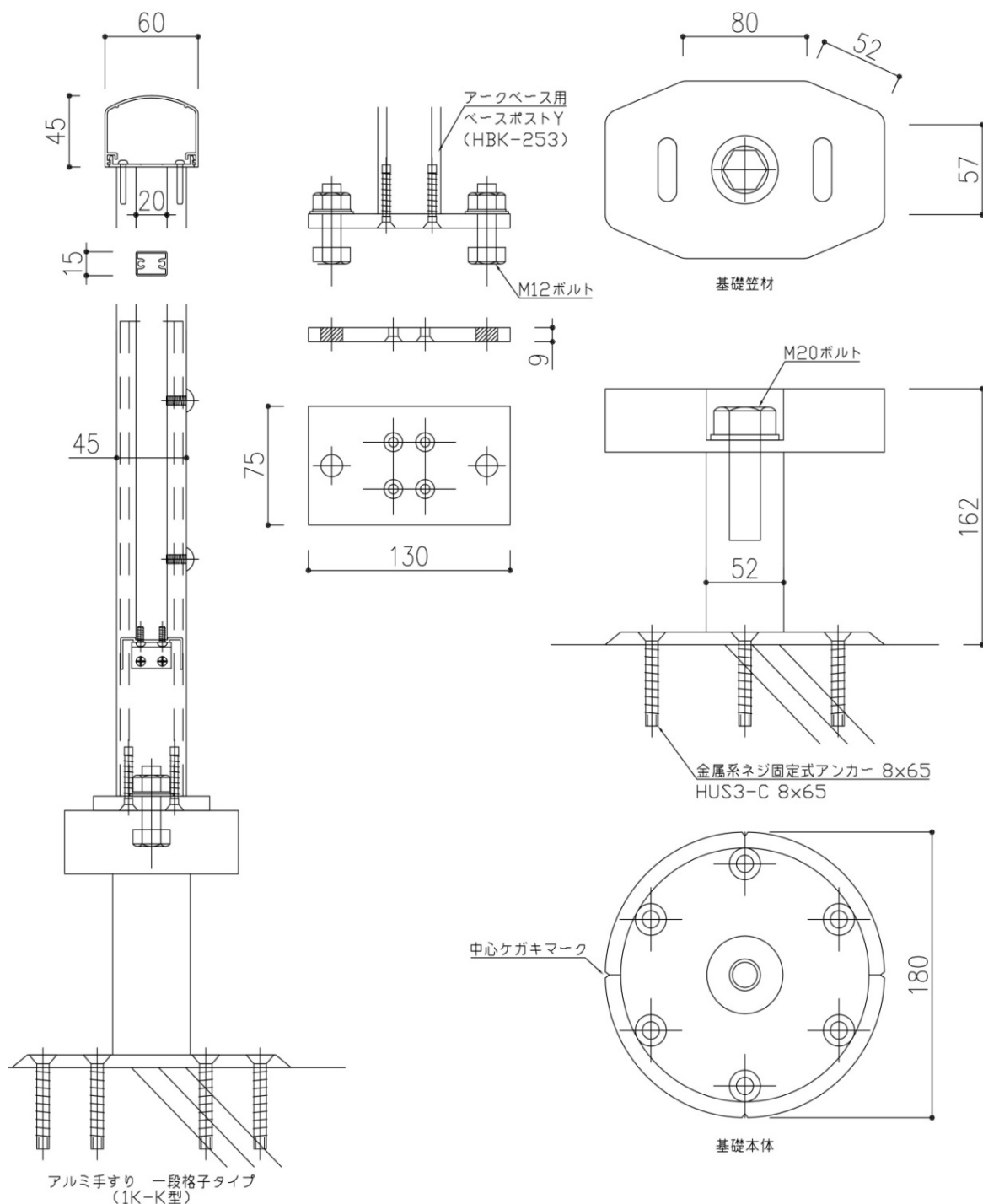


アルミ手すり 露出防水用 ルーフスチール基礎 施工手順書

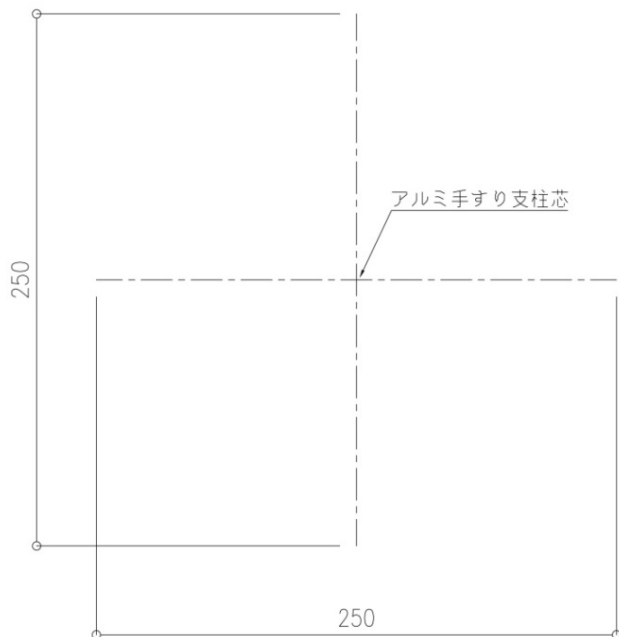
アークベースV

Ver2.2024.02



墨出し・取付け

- ①取り付けるアルミ手すりの、支柱芯の位置を承認図に従い墨出して、250mm×250mm程度の十字にマーキングしてください。



- ②十字にマーキングした支柱芯墨に、基礎笠材を取り外したアークベース本体の中心、ケガキマークを合わせ、アンカー位置に印をつけてください。
- ③アークベース1ヶにつき、最低5カ所アンカーで固定する必要があります。
穴をスラブに開ける際、2穴以上鉄筋に当たる場合は穴位置をずらしてください。
※下孔φ8mm、深さ60mm
※スラブ筋は切断しないでください。
- ④専用アンカー（ヒルティ「ねじ固定式金属系アンカー」HUS 3-C 8×65）で留め付けます。
アークベースの倒れ調整は、専用スペーサーで調整してください。
厚みは「1mm、2mm、3mm」の3種類。（調整は1枚まで）
- ⑤防水終了後、笠材をM20ボルトで取り付けてください。
- ⑥アークベース取り付け後、笠材のレベルを実測して、手すり支柱の長さを工場加工します。
- ⑦支柱補強材（ベースポストY「HBK-253」）付アルミ手すりをM12のボルト（2本）で固定します。
固定時の倒れやレベル精度が悪い場合は、SUS製のスペーサー等を笠材とHBK-253の間に挟み調整してください。

特に注意すること

- ・スラブ配筋は切断しないでください。
- ・アークベース1台に対して固定アンカーは、手すりの強度上、最低5本必要となります。
- ・アークベースは押えコンクリートにも取り付け可能ですが、コンクリート厚は90mm以上必要となります。
- ・縦格子手すり、手すり高さH=1000mmの場合の支柱間隔は≒@1200となります。
(自社基準)
- ・ルーバータイプ等の風圧を受ける手すりタイプの場合はご相談ください。
- ・アークベース取り付け位置や、水勾配によって下柵下の空気が大きい場合は、くぐり止め等の対策が必要になります。